



兵庫支部NEWS H23年 3月号

北九州市立大学同窓会兵庫支部 編集発行人 名越英昭(Tel.078-792-6130)

ホームページ <http://www.hi-net.zaq.ne.jp/kono> メール hn75kb@ybb.ne.jp

購読料 12回、1,500円(送料込)

購読のお申し込みは郵便振替

振替口座:00980-2-245822

口座名:北九州市立大学同窓会兵庫支部

支部総会は7月2日(土)予定 開催場所は三金会会場の「本館牡丹園」

2月20日(日)午後1時半から兵庫支部役員会がJR兵庫駅前兵庫勤労市民センター第2会議室に於いて開催された。

安徳支部長をはじめ、副支部長・幹事など13名が出席し、役員は18名のうち10名が出席し過半数を超えており、定足数についての規定はないが、慣例により役員会が成立し議決は有効である、と山田副支部長兼幹事長が確認し議事進行役を務めた。



出席者:安徳信義支部長(44商)永翁正臣副支部長(41商)山田純昭副支部長兼幹事長(44商)松山仁副支部長兼会計(44商)藤田博保幹事(35商)浜田勝義幹事(44米英)福永憲彦幹事(44経営)牛丸敬孝幹事(51中国)河野旺生会計監査(36商)平間正昭会計監査(37商)大村実良相談役(33商)名越英昭相談役(37米英)二宮慶治郎事務局(38米英)

1. 役員会役割分担について

安徳支部長から、44年卒以前の参加割合が昨年の支部総会において60%で、従前は80%だった。総会以外の行事では95%で若手の参加が極端に少ない。現在44年卒が中心となっているが、若い世代へ引き継いでいけるようにしたい、旨の挨拶があり、昨年7月の役員会で発表された兵庫支部基本運営方針に基づき、種々意見が交換された。

*牛丸幹事は組織部門として総会を担当する。

*総会案内状に今後の案内の要・不要を尋ねるアンケートを入れる。

などが決まり、地域部会を作る事、事務局担当後任者の件、兵庫支部NEWSの記事執筆・補佐する人の選任の件などは後日の審議に委ねる事になった。

2. 平成23年度第25回支部総会について

開催日時を、平成23年7月2日(土)午後4時半からとし、場所は、三金会定例会場である「本館牡丹園」とする事に決定し、その他の詳細は牛丸幹事が総会担当となり詰めて行く。

今年も、昨年同様「支部運営協力金」をお願いする事になった。

3. 支部規約改訂案について

改訂案が配布され、山田副支部長兼幹事長から趣旨説明がされたが、多数の意見が出され、それを参考に改めて次回の役員会で再提案される事になった。

4. その他

*次回三金ゴルフは3月30日(水)於明石GC

*次回役員会は5月15日(日)13:30兵庫勤労市民C

第34回三金ゴルフ開催要領決まる 3月30日(水)於明石ゴルフ倶楽部

昨年から関西支部との合同開催となった「三金ゴルフ」春の大会要領が発表された。

今回は7組28名の枠を確保してており、三金ゴルフ史上最多数の参加者で、賑やかな大会となりそうである。先般の役員会席上では、松山会長をアシストする世話役として永翁・久芳両氏が自発的に申し出されたとのことで、大会運営もスムーズにされると期待されている。

開催要領は下記の通り。

記

第34回三金ゴルフ

(兵庫支部・関西支部合同ゴルフコンペ)

開催日:平成23年3月30日(水)

場 所:明石ゴルフ倶楽部 (鶴田支配人)

〒651-2231神戸市西区栢谷町寺谷1217

Tel.078-991-0106 Fax.078-991-4335

プレイヤ:8,900円昼食込(ツツソフトドリンク付)

乗用カート、セルフ

参加費:3,000円

競技方式:ダブルベリア

予約枠:アウト 3組、イン 4組、7組28名

表 彰:従来通り

連絡先:松山 仁(44商)三金ゴルフ会長

Tel.078-232-1877(社),078-791-3327(宅)

携帯 090-3286-2979

E-mail:j.matsuyama@viking-kobe,co.jp

交通アクセス



*神戸西IC(山陽道)を出て右折し、次の信号を左折してコースへ、約5キロ

*阪神高速道北神戸線前開ICを出て右折し(東から)左折し(西から)、ハイテクパーク北交差点を左折し県道65号線を直進し、福谷北の交差点を越えたら30m程先を右側に入る。

エントリー状況(3月4日現在 12名)

井上信之(25米英)梶山泰彦(30米英)河野旺生(36商)

山本信司(37米英)名倉勝征(41米英)永翁正臣(41商)

葉室新人(41米英)安徳信義(44商)久芳健二(44中国)

松山 仁(44商)井上隆令(会友)謝 美華(会友)

初めて金剛山に登山して

浜田勝義 (44米英)



2月の「歩こう会」は金剛山登山だった。私は冬山でスキーをしたことはあるが、冬山に登るのは初めてであった。もちろん、金剛山に登るのも初めてだったので新鮮さがあった。

(浜田勝義氏) 2月13日は快晴で、前日までの悪天候が信じられない位だった。9時半ごろ靴にアイゼンをつけ、皆と一緒に登山口を出発した。最初は途中で休むこともなくすいすいと順調に登って行くことができたが、7合目から8合目辺りから急こう配が多くなりしんどくなってきた。

しかし、その時平成13年頃中学3年の英語教科書(三省堂New Crown)に載っていた登山家田部井淳子さんの言葉を思い出した。彼女は女性として世界で初めてエベレストを登頂した人である。

“You can reach the top of any mountain if you can walk step by step. You don't have to walk fast. You only have to keep walking. There's no shortcut, no giving up” (「もしあなたが一步一步着実に歩き続けるなら、あなたはどんな山の頂上にも到達することができる。速く歩く必要は無い。ただひたすら歩き続けるだけだ。近道は無い。あきらめてはいけない。」)

心臓が激しく鼓動し息切れしそうであったが、田部井さんのこの言葉を胸に、午前11時ごろには頂上に無事着いた。後から登って来る人を待っている40分か50分ほどの間に、体はすっかり冷えてしまった。頂上の気温は-4℃から-5℃であった。

しかし、待っている間に頂上の銀世界を十分に楽しむことが出来た。皆が揃った頃に酒宴が

(山頂広場の平間・浜田・元田各氏) 始まり盛り上がった。私は体が冷えていたので、立ったまま体を動かしながら昼食をとった。昼食後記念写真を撮り、帰りは道に詳しいリーダーに従って隊列を乱すことなく全員無事に下山した。自然に親しめた一日だった。

PS 2月18日午後8時からNHKテレビで関西特集

損害保険・医療保険・がん保険
の総合保険代理店
安心の発信基地

大村保険サービス
代表 大村 実良
(昭和33年商学部卒)
652-0897
神戸市兵庫区駅南通3丁目4-1-302
TEL 078-671-7318 FAX 078-671-8316

第16回関西・兵庫囲碁交流会開催予定

4月17日(日)午後1時から本館牡丹園で

平成15年2月に始まった「囲碁交流会」は、今年で9年目を迎える。

段位者が揃っている関西支部陣営に対し、大半が級位者という兵庫支部陣営では、ハンディ戦とはいえ、圧倒的に関西支部が勝ち越している状況だが、戦いの後の懇親会も楽しみの一つである。

これまでの戦績は、チーム対抗では兵庫支部が3勝12敗、個人別では125勝181敗2分となっている。

第16回大会は、4月17日(日)午後1時から、兵庫支部「囲碁の会」定例会場(「三金会」の定例会場でもある)の「本館牡丹園」3Fに於いて開催されることになった。参加者は未定だが、少なくとも各チーム5~6人くらいの参加者が期待されている。

なお、終了後の懇親会も同じ会場で予定されており交流会参加者以外の人への参加も大歓迎である。会費は3500円程度の予定。

連絡先は平間正昭氏、Tel.090-7870-9445

兵庫支部月例会2月「三金会」

2月18日(金)午後6時から「三金会」が定例会場の本館牡丹園で6名が出席して開催された。

出席者は、安徳信義(44商) 大村実良(33商) 山本信司(37米英) 平間正昭(37商) 名越英昭(37米英) 二宮慶治郎(38米英)



(左から、名越、安徳、山本、大村、平間、明亮(店主夫人)、二宮)

「認知症抱える老夫婦・山登り一年の記録」が放映された。夫が認知症にかかった妻を、献身的に介護しながら、以前からしてきた金剛山への登山を、今も夫婦で続けている。今年1月には二人合わせて9840回(一人4920回)を達成した。金剛山の風景が人の心を癒してくれるからだと言う。

「三金会」「囲碁の会」会場ご案内 本館牡丹園

神戸市中央区元町通1丁目11-20

電話 078-332-4588 FAX 078-392-3020

JR元町駅東口海側下車、南へ(大丸方面へ)徒歩1

「三金会」

毎月第三金曜日 午後6時~
会費:3,500円(男性)
2,000円(女性)

「囲碁の会」

毎月第三金曜日 午後3時~
参加費:無料、ドリンク/500円



熊野街道を歩く ー 第8回 ー

JR山中溪駅からJR紀伊駅まで

山中関所跡→最後の仇討ち場→中山王子(24)→山口王子(25)
2月25日(金)天候が良いので急遽思い立ち、熊野街道ウォークに出かける事にした。今回で大阪府から和歌山県に入る。だんだんとスタート・ゴール地点が遠くなってくる。朝ドラ「てっぺん」を見てから出発なので歩く時間も限られてくる。

スタート地点のJR山中溪駅に到着したのは、電車が20分ばかり遅延した為11時を大分廻っていた。

最初に訪れたのは「山中関所跡」だ。駅から県道64号線を南へ100mばかり行ったところの、左手の小高い所に関所跡を示す石碑と説明立札がある。南北朝時代に設けられ、河内の観心寺に法華堂を



(山中関所跡)

造営する為南朝の長慶天皇がこの山中の関所を料所としたという記録がある由。江戸時代に廃止された。

そこから1キロ少々で県境(府境)にやってくると、左手に金網で囲まれた石碑がある。史跡「日本最後の仇討ち場」とある。土佐藩士広井岩之助が文久3年(1863年)父の仇を討った場所で、「あだうち免許状」を与えられた最後の仇討ち言われている。

ここから和歌山県だ。途端に「熊野古道 きれいに」との看板が次々と立てられている。これまでは熊野街道とか小栗街道あるいは紀州街道と表示されていたのに。



やがて、和歌山県に入って最初の王子が「中山王子」(24番目)だ。(和歌山県の看板)

熊野古道ウォークでお馴染みの青色の王子説明板と三本足の八咫鳥が刻まれた石碑が目に入る。

鉄道の敷設によって春日神社に合祀された。

64号線から阪和線の踏切を渡ったところにある。そこから旧道を暫く歩き、五分咲き位の梅の花を見ながら再度踏切をわたり64号線に戻り、雄ノ山峠へと向かう。道中右の写真のような立札をちょこちょこ見かける。64号線は岩出市と和歌山市を出たり入ったりしながら通っているらしい。

峠というので覚悟していたのだが緩やかな坂道が、阪和高速道沿いに走っており、どこが峠の頂上か判らぬままいつの間にか下り坂になっていた。前方に市街地が見えてきたが、結構高い場所だ。下りはかなり勾配のある坂道だった。ヘアピンカーブを通り過ぎると「幸福地藏」と名付けられたお地藏さんが祀られていた。平坦な道になり暫く進むと山口王子への道標が



あった。64号線を離れて左へ少し入ると「山口王子」跡(25番目)があった。

藤原定家や藤原頼資の日記にも表れ、江戸時代には境内周囲が32間の王子権現社だったが明治時代に山口神社に合祀された由。

この先の小野寺橋を渡った所に小野小町の墓があるとのことだが見当たらず、ちょうど通りかかった若い女性に尋ねてみたが所在不明。あきらめて民家の間を通り抜ける山口神社への近道を行くと農道に出た。

田畑が広がり、岩出市か和歌山市かの市街地が遠望できる一角で昼食をとる。

山口神社はJR阪和線の直ぐ下に位置して春日神社と日吉神社が祀られていた。鳥居には確かに山口神社と表示されていたが…。

山口神社から参道を下りて一の鳥居があるところを左折した辺りに「役の行者堂」があると紹介されていたが、見過ごしてしまっただけ。

この辺りは豪族山口喜内重安の御殿のあったからだろうか、山口地区といわれており、御殿は和歌山城の分身の性格を持っていたそう。御殿跡には山口小学校が開校され、校章は徳川家の家紋の葵をあしらったものとのこと。

またここは和歌山城から三番目の一里塚があり、樹齢数百年の大木があって山口の目印となっていたが、ジェーン台風(昭和25年)で倒木してしまった由。

小学校前を通り過ぎると遍照寺の前にやって来た。大坂夏の陣で豊臣方に参陣し滅亡した山口喜内一族の墓があり、小野寺から移された小野小町の老衰した木像がある。

丁度お坊さん達が法要の準備中で本堂内におら

れ、木像はいずこに、と覗いていた筆者を見つけご親切にその場所まで案内していただいた。

高さ30cm位の小さな座像で、目鼻立ちがはっきりしない木像だったが、ぼんやりフラッシュを焚いて撮影させて戴いた。

遍照寺を出て、藤田古墳のある妙見堂に立ち寄り、川辺王子方面へと向かったが、そこから案内図のゴール地点布施屋駅まで行くとかなり遅くなりそうなので途中で切り上げてJR紀伊駅から帰路に就く事にする。それでも、本日の歩行距離は10.5kmになっていた。3時半頃に紀伊駅に到着し、紀州路快速で大阪・神戸に向った。



(山口王子跡)



(左日吉神社、右春日神社)



(遍照寺正面)



(小野小町老像)



歩こう会2月例会 金剛山登山

美しい樹氷と雪山を堪能!!

平成14年2月1日建国記念日に二宮会長に誘われて、故吉本富雄氏と3人で登ったのが最初で、その後、平成16年2月からは「歩こう会」例会として、毎年2月に金剛山登山が恒例となっている。

阪神三宮駅午前7時3分発特急電車先頭から2両目に乗車したのは、元田幸治(40商)名越英昭(37米英)と山浦夫妻・影山・角田・謝の会友5名、御影駅から、二宮会長が合流し、そして南海電車難波駅で藤田博保(35商)平間正昭(37商)安徳信義(44商)浜田勝義(44米英)の4名が合流し、計12名の参加者が揃った。

河内長野駅前ではバスを待つ長い行列で、一便遅れのバスに乗車し登山口へと向かう。

去年は頂上近くまで雪が無い冬山らしくない金剛山を経験したが、今年は一転して麓からアイゼン着用が必要だ。

バス停前の店で初参加の浜田角田、影山、及び山浦夫妻達はアイゼンを買求め早速着用す(二宮会長アイゼン着用指導)る。登り始めて間もなく水飲み場がある1合目を過ぎ



(地藏菩薩の前で山浦夫妻)

た所に13佛第5番の地藏菩薩の地藏尊を見つけた。今年は雪が深く道中の地藏尊は殆んど見かけられなかった。

足元の人生訓は「勝つことも勉強、負ける事も勉強、人生何をしてても勉強」「たった一言が人の心を傷つける、たった一言が人の心を暖める」と。

登り始めて約20分も温まり、上着を脱いで、アイゼンを踏みしめながら雪道を登って行く。と道端に「千早本道ほー1」と表示された標柱がある。上部に



(新しい標柱)

「通報時には案内板の番号を伝えて下さい」とある。去年は無かったはず。少しずつ整備が進んでいるようだ。

のろし台跡の5合目まで約1時間かかっている。山頂へ1400mと表示されているので総距離2.8kmということだ。いずれにしろ後1時間かかり12時頃にはゴールできるのだろう。いつもの事ながら37年卒同期の平間・名越が最後尾だ。ここでも新しい休憩所が建設されているのを発見。後で聞いたのだが、我々が5合目にやっと到着した頃には初参加の浜田氏は、すでに頂上に到着したらしい。

5合目で一息入れて再出発する。頂上に近くなるにつれ樹氷が美しくなる。頂上に到着したのは予想通り、丁度12時だった。



平間氏は34回目となる登頂記録の受付を済ませて広場へ向かうと、登頂回数記録ボードの前でお湯を沸かし、昼食(酒宴?)が始まっていた。早速、持参のカップラーメンと取り出しお湯を注ぎ、昼食の準備。謝さんは「豚の耳」等の食材仕入れの為新長田まで歩いて往復だとか。紹興酒も持参し大サービスだ。



(記録ボードの前での昼食風景)

1000回以上の登頂記録を持つ豊嶋夫妻と山頂で合流し、昼食を共にする。豊嶋氏はかつて神戸に通勤し、謝さんのお店(閉店)の御常連だったとか。(豊嶋氏(左)と藤田氏(右)その前に豊嶋夫人(左)と謝さん)

昼食後は、国見城址広場で記念撮影し、豊嶋夫妻の案内で、尾根伝いに雪深い木立の間を縫って下山する事になった。登ってきた「千早本道」とは反対側に、即ちロープウェイ駅方面への広い道を下り、途中から尾根伝いの道に入る。



(樹氷が一段ときれいな場所で記念撮影)

余り踏み荒らされていない雪道は、コースを熟知している人で無ければ「道」と判別し難く、我々だけだと迷ってしまいそうな「道」を豊嶋夫人が先導し、豊嶋氏がしんがりを務め、一列縦隊となって下山する。

雪は深いが天候は晴れ、初心者でも十分に雪道を楽しむことができた。

急な坂道では滑り易く、そろりそろりとへっぴり腰で歩を進めるも、それなりに良い思い出となったことだろう。

豊嶋ご夫妻に感謝!感謝! 3時過ぎにふもとのバス停に到着し、河内長野駅へと向かい、難波駅で解散することにしたが、やっぱり

ちょっぴりのどを潤したいと、なんばの街を右往左往して、神戸でも馴染みの「ミュンヘン」に入って乾杯!

お疲れさまでした。また次回もよろしく!

